

中華料理 松葉

情報学研究科 2 回生 田中 健太

さて午後1時を過ぎ、だんだんおなかがすいてきました。都営大江戸線の落合南長崎駅から目白通りを10分ほど歩き、途中で折れて、さらに昔ながらの商店街を進んでいくと、一際目立つ黄色い看板が見えてきました。ラーメンの老舗「松葉」です。トキワ荘の向かい側に建っていたことから、藤子先生、手塚先生、赤塚先生などの名立たる漫画家たちも若い頃に食べに来ており、「ンマ〜イ！」と言いながら舌鼓を打っている様子は藤子不二雄^④先生の自伝漫画である『まんが道』にも描かれています。

昔ながらの引き戸を開けて、店内に入ると、まず目に飛び込んできたのが壁に飾ってあるたくさんのサイン入り色紙です。多くの芸能人や漫画家たちに愛されていることが一目で分かりました。店内を見渡すと、年季の入った木製テーブルが4卓と、小ぢんまりとしたカウンター席と座敷席があり、客席は全部でわずか20席ほど。厨房で調理している店員さんは女性1人だけで、日頃、大きなチェーン店でラーメンを食べることが多い私にとっては非常に目新しく感じました。

テーブルを囲み、松葉を訪れた漫画ファンたちが記帳しているノートブックに目を通しながら歓談していると、私たちが注文した料理が出てきました。松葉名物の「ラーメン」、480円です。醤油味のあっさりしたスープにストレート麺、具はチャーシュー、メンマ、若布、ゆで卵、葱、といった、非常にシンプルなラーメンで、昭和期を感じる懐かしい味わいでした(私は平成生まれなので昭和の味を全く知りませんが)。最近の巷のラーメン店は、スープを濃厚にしたり、麺を太麺にしたり、隠し味に魚介類を使用したり、各店様々な工夫を凝らしていますが、そんな情勢の中、あえて飾らずに典型的なラーメンで正々堂々と勝負している点が、松葉の素晴らしいところだと思います。

話を聞くとところによると、福建省出身の2代目店主・山本一廣さんが6年前に脳梗塞で倒れて厨房に立てなくなってから、奥様の山本麗華さんが一人で店を切り盛りしているそうです。多くの商店街がシャッター通りと化してしまっている現代ですが、トキワ荘があった古き良き時代を今に残す「聖地」として、これから先も、昔と変わらぬ味を守りぬいてほしいものです。

